

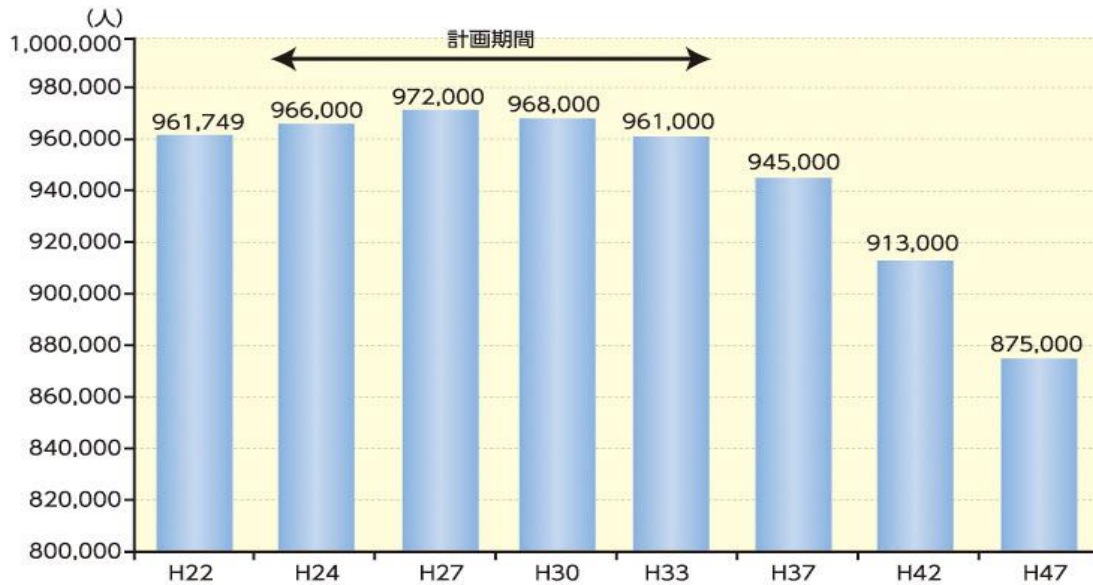
千葉市を取り巻く状況と公民館

千葉市を取り巻く状況（１）～人口減少と超高齢化～

本市の総人口は、平成27年に97.2万人に達した後、全国に比べ緩やかに減少する見通しです。
平成47年には87.5万人と、平成11年頃の水準まで減少する見通しです。

（出典：千葉市新基本計画）

■総人口の見通し



高齢者(65歳以上)の人口が増加を続け、平成27年には4人に1人が、平成47年には3人に1人が高齢者という超高齢社会が到来する見通しです。

また、当面は、65～74歳の高齢者が75歳以上の高齢者を上回りますが、平成33年には逆転する見通しです。

これに対し、年少人口(15歳未満)や生産年齢人口(15～64歳)は減少を続ける見通しです。

■年齢3区分人口及び高齢化率⁴の見通し

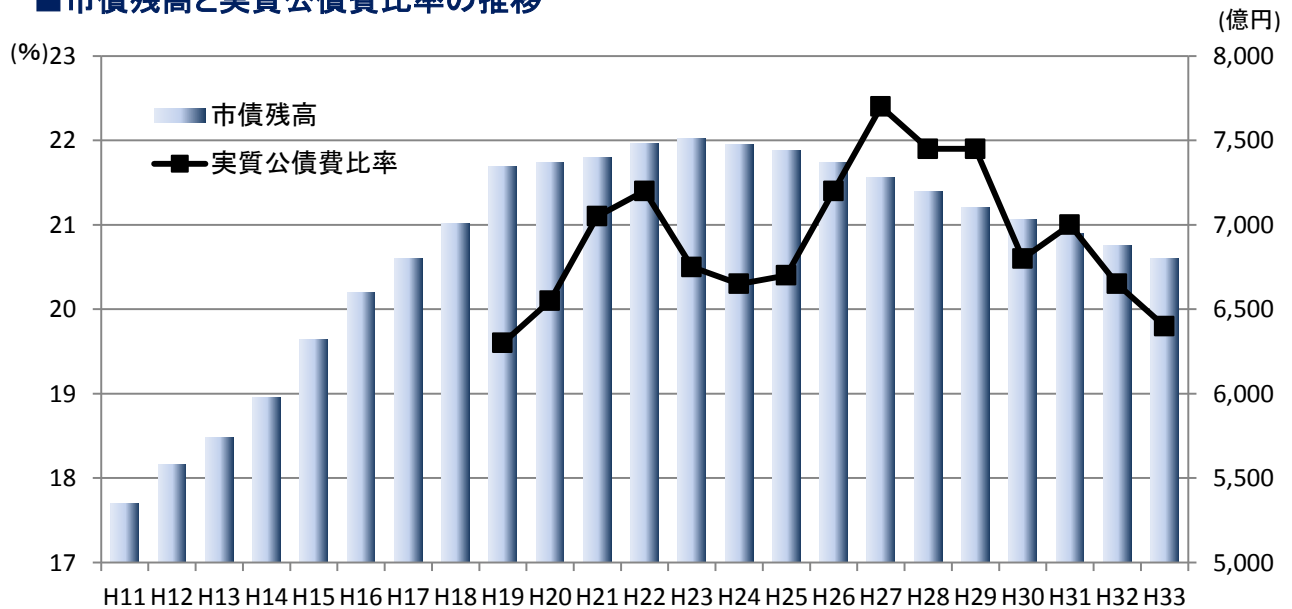


千葉市を取り巻く状況（2）～厳しい財政状況～

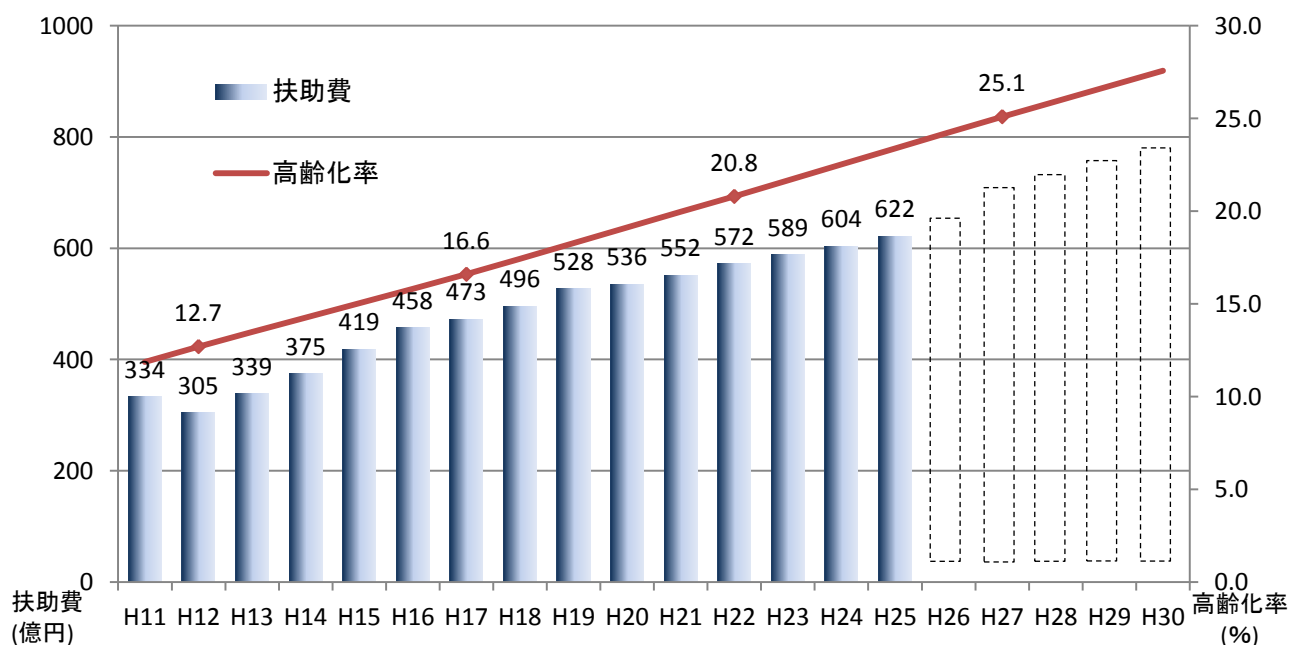
本市は、戦後の人口急増対策として、社会資本整備などに継続的に取り組んできました。
 また、平成4年の政令指定都市移行を契機とした大都市にふさわしい都市基盤施設の整備や、バブル経済崩壊後の景気対策などにより、財政規模の拡大が続いてきました。
 これらの取組みにより、本市の都市基盤施設は、他の大都市と比べても遜色のないものとなってきています。
 しかしその一方で、市債残高は増加し、基金が枯渇するなど財政の硬直化を招いたことから、財政健全化に向けた取組みを強化してきました。
 過去に発行した市債の償還がピークを迎えているほか、生活保護費をはじめとする社会保障費の増加などにより、今後数年間にわたり多額の収支不足が見込まれています。
 当面の危機的な状況を乗り越えた後も、楽観できない状況が続くと考えられます。
 少子超高齢化や雇用情勢の悪化などに伴い、高齢者福祉や生活保護対策などに支出される扶助費は増加し続けており、今後も引き続き増加していくものと見込まれます。

（出典：千葉市新基本計画）

市債残高と実質公債費比率の推移



高齢化率と扶助費の推移



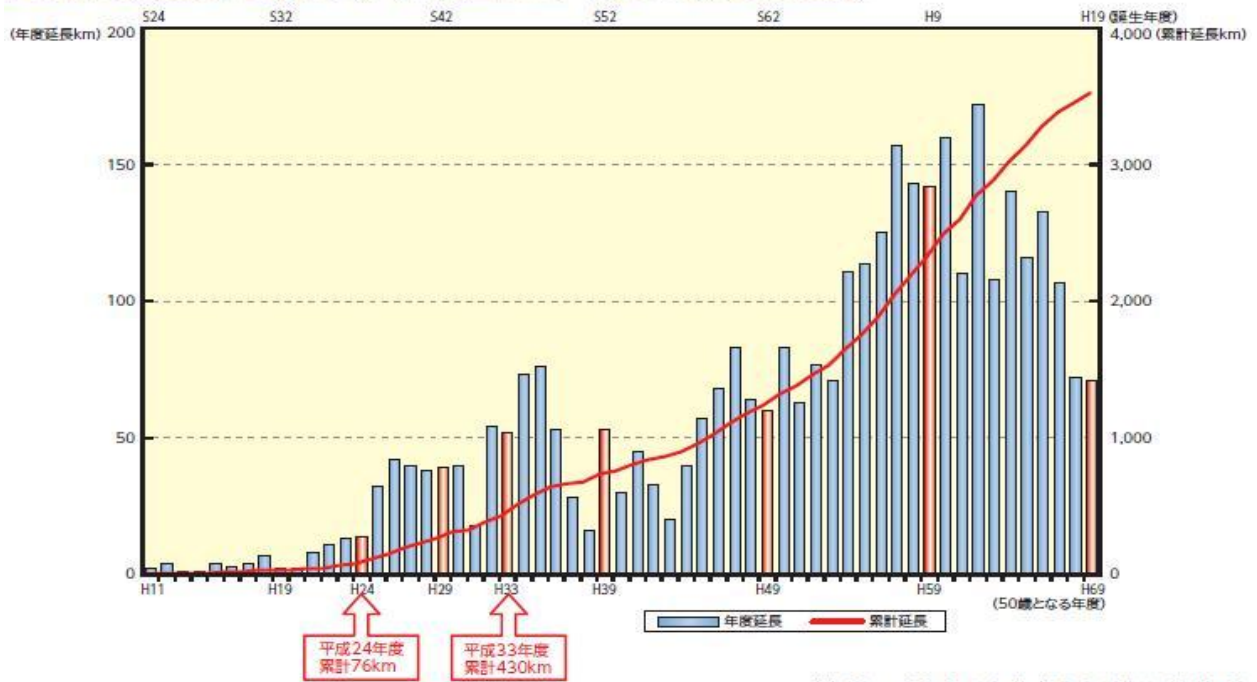
一方、生産年齢人口（15～64歳）の減少が進むとともに、経済情勢も不透明な状況であることから、税制が大きく変わるなどの変化がない限り、将来的にも税収の大きな伸びを期待することは難しい状況です。

千葉市を取り巻く状況 (3) ～都市基盤の更新～

これまで積極的に整備してきた都市基盤施設が、老朽化に伴い今後、順次、更新時期を迎え、これらの維持・機能更新に多額の費用が必要となる見通しです。

(出典：千葉市新基本計画)

■都市基盤施設の老朽化の例 (下水道管渠が年齢50歳となる延長)



(資料：千葉市下水道事業中長期経営計画)

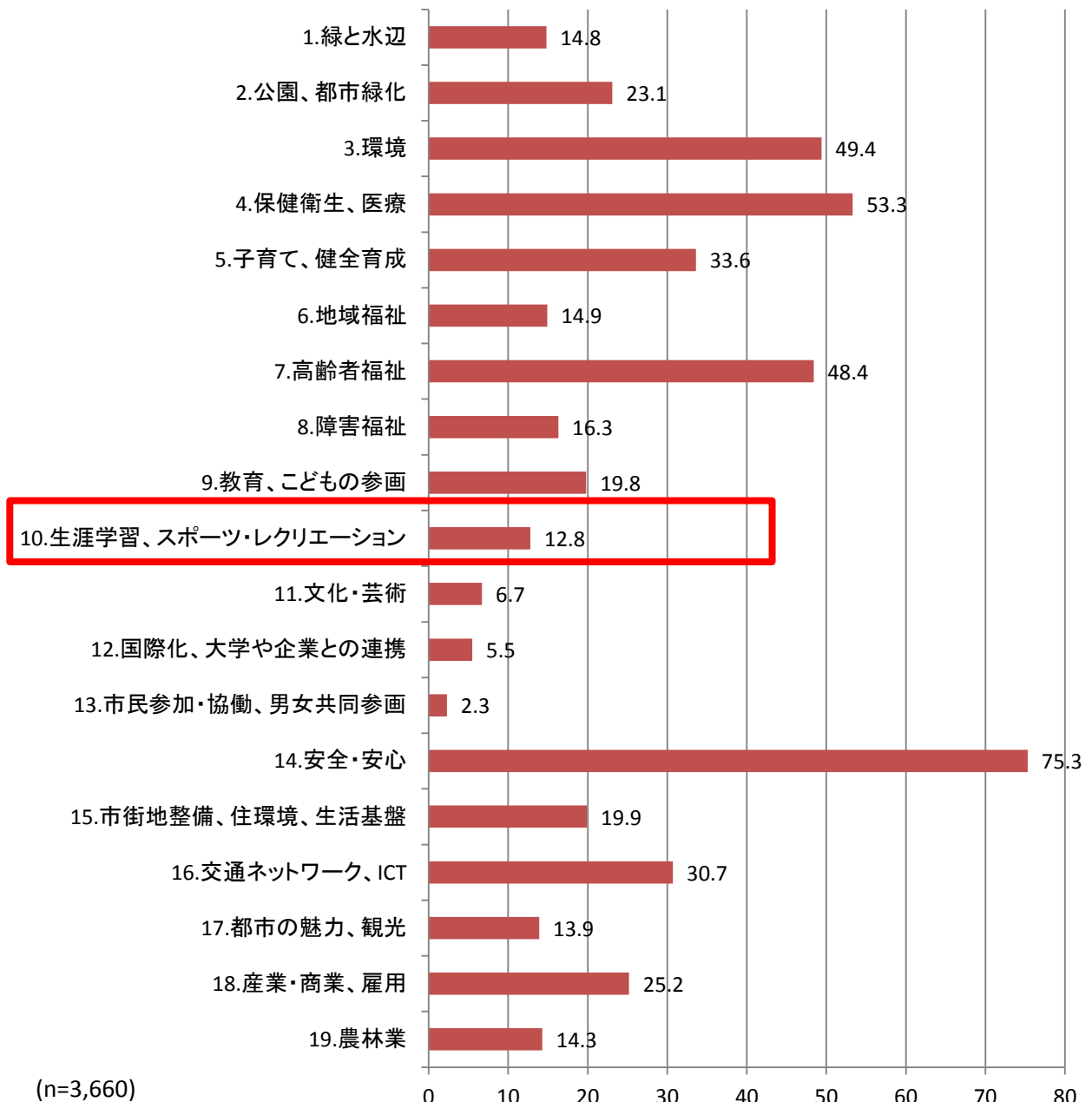
千葉市を取り巻く状況（４）～まちづくりに関する市民意見～

まちづくりについて、重要だと思う分野について、「生涯学習、スポーツ・レクリエーション」は、19分野中16位で12.8%になっています。

（出典：～ 魅力と活力にあふれるまちへ ～ 市民1万人のまちづくりアンケート(平成23年度実施)）

まちづくりについて

将来の千葉市をより良くするためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(19)のうち、重要だと思うものを5つまで選び、番郷に○をつけてください。（複数回答）



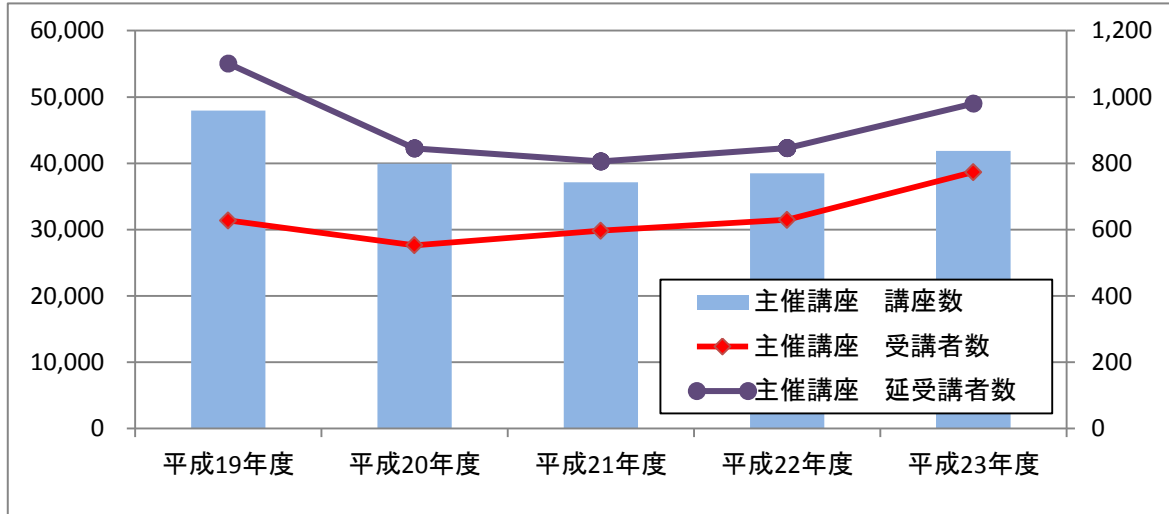
公民館の状況（１）～公民館主催講座と団体利用者～

主催事業の実施回数は一時減少しましたが、ボランティア講師の活用などにより持ち直しています。

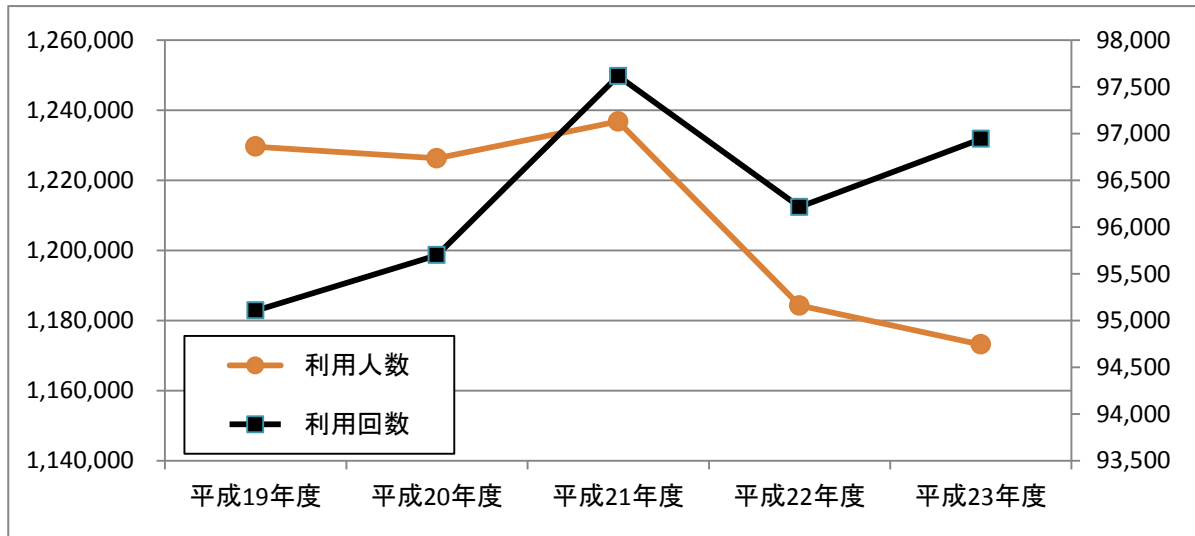
団体の利用については、利用回数が増加しているにもかかわらず、利用人数が減少しています。これは、1団体あたりの人数が減少しているためと考えられます。

（出典：千葉市の社会教育）

■公民館の主催事業及び受講者数の推移



■公民館の団体利用人数及び利用回数の推移



項 目		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
主催講座	講座数	959	799	743	770	837
	受講者数	31,379	27,641	29,847	31,480	38,680
	延受講者数	55,058	42,277	40,295	42,307	48,995
利用状況	利用回数	95,107	95,700	97,616	96,215	96,944
	利用人数	1,229,636	1,226,298	1,236,779	1,184,309	1,173,183

※南部児童文化センター・南部青少年センターの事業等を含む。

公民館の状況（２）～生涯学習と学習成果の地域での活用～

10.「この1年間に、生涯学習施設を利用したことがある」の問いに、50.3%が「はい」と答えている一方で、
11.「生涯学習で学んだ知識や技術を地域や社会活動で活かしている」の問いには、「いいえ」が47.4%に達しており、
「学び」を地域に還元するための支援が引き続き必要であることが示されています。

（出典：～ 魅力と活力にあふれるまちへ ～ 市民1万人のまちづくりアンケート(平成23年度実施)）

日常生活での行動について

日常生活においてあなたはどのように行動されていますか。それぞれの項目について、当てはまると思う回答欄の番号を1つ選び、○をつけてください。
また、「いいえ」と答えた理由について、ご意見があればお書きください。

